



## 定期的な見計らいの試み

井上 智奈美

### I. はじめに

見計らいとは、選書方法の一つで、実物を見て評価する実物評価にあたる。実物評価には他に、書店の出張販売や書店に行くなどの方法がある。

実物を見ずに選書する方法としては、予備評価がある。予備評価とは、出版目録やパンフレット、書評などで評価する方法で、予備評価をしてから実物評価をするとより精度の高い選書ができると思われる。

今回、実物評価のうちの見計らいと書店の出張販売が持つメリットを抜き出し、当院に適した方法として定期的な見計らいを実施した。

### II. 実施背景

当院は、病床数188床、職員数356人、診療科21科の企業立病院である。図書室は、3階南側で医局の隣にあり、部屋の広さは約90㎡、閲覧用の座席が6席という小規模図書館である。担当者1人で運営しており、蔵書数は、単行本が約5,100冊、雑誌は和洋合わせて約190タイトル、DVDやビデオなどが約190本となっている(2008年3月現在)。

当院では書籍の購入は、原則1年に1回各部署に希望を聞いて、図書委員会で検討してから購入する書籍を決定している(以下、一括購入)。そのため、当院にあった新刊書籍がないか普段から気にかけておく必要がある。具体的には、ダイレクトメールなどにある宣伝チラシや毎月の出版目録などを確認したり、各出版社のウエ

ブサイトを確認したり、書評を読んだりといった確認作業を行うのである。これらはかなり手間がかかるため、少しでも軽減したいと考えた。

### III. 見計らいと出張販売

見計らいとは、取引のある業者(書店)に、希望する書籍あるいは主題など、ある一定の注文範囲を示して持ってきてもらうことである。つまり実物を見てその書籍が必要かどうか評価する実物評価のことである。これは図書館員が主導的な立場となり、不要な書籍は避けて必要な書籍だけを書店に依頼して取り寄せることができる。当院では、見計らいの存在を知らない利用者が多く、頻繁には行われていなかった。

一方、図書館員が必要なテーマや書名を言わなくても、書店がおすすめ書籍を持ち込んでくることがある。大規模なものになると、書店による出張販売となる。

出張販売とは、書店が病院内の一室または場所を借り、持ってきた書籍を(一定時間)展示・販売することである。これは書店が主導的な立場となり、書店が売りたい書籍を持ってくる場合が多い。そのため、図書館員が立ち会わ



なくても実施してくれる。しかし、人件費がかかるため、当院のような中小病院の小規模図書館で行うには書店にとってのメリットが少なく、また、図書館員にとっても部屋を確保するなどの労力が大きい割には展示期間が短いため、得られる効果が少ないと思われた。

そこで、当院に合った目標を設定し、見計らいと書店の出張販売のメリットを抜き出した方法を検討した。

#### Ⅳ. 当院実施の見計らい

当院の目標を次の3つとした。

##### 1. 書籍の中身を確認したい

当院では1年に1回各部署が希望を出して書籍(主に単行本)を購入している。各部署からの希望だけでは蔵書構成が偏るため、そうならないよう図書館員が選出する枠を設けている。そのため実物を確認できると、より選書しやすくなる。

##### 2. 新刊情報を受動的に得たい

どんな新刊が出たのかを、常に気にしておくことは難しい。すべてを網羅していないとはいえ、書店が持ってきた新刊書籍がすぐそばにあると、ちょっとした時間に手にとって見ることができる。つまり、予備評価をしてから見たい書籍を書店に請求するという手間が省ける。一人職場のため仕事が滞らないよう時間のやりくりをする必要がある。

##### 3. 個人負担による購入の手助けをしたい

書店に行く時間のない院内スタッフが、院内で気軽に書籍を見て、さらに購入できると喜ばれる。図書室が書籍購入の窓口になるのだが、情報提供という意味では図書館業務に数えてもよいと思われる。

以上の目標を定め、当院に適した見計らい方法として、新刊書籍を一定期間書店から預かり図書室で展示・販売することにした。

展示は、1カ月に1回行い、1回あたりの期間を、2週間とした。毎日では図書館員に負担がかかるため、休止時期を設けた。

展示場所は、図書館員の机付近とした。ただし、図書館員が在室している間のみ展示するため、夜間は施錠できる場所に保管した。

また、場所がそれほど広くないため、大規模な展示にはできない。1回あたりの冊数は、20～30冊程度を持ってきてもらった。

展示内容は、新刊書籍など(主に書店のおすすめ)を中心に依頼した。場合によっては図書館員からも要望を出すことにした。

院内スタッフに対する広報は、メールで案内を出した。「見計らい」ではわからない人もいるため、わかりやすい(かどうかは不明)名称で「ブックフェア」と名付け、その月ごとの書名リストと展示期間などをお知らせした。

購入方法は、欲しいと思ったらその場で購入できるようにした。代金は図書館員に支払う(多少の割引がある)。その場で購入ということは、売れたらその書籍を見ることができないということになるが、そうすることで「早く見に行かなければ」という競争心をあおってみようと思った。万一売れてしまっても、事前にメールで書名リストをお知らせしているため、院内スタッフからの要求に応じて必要な書名を書店に連絡し、随時補充してもらえる。



図1 ブックフェアの様子

図1のような感じで実施している。ただ書籍を並べただけでは何のことかわからないと思い、掲示物を作成し箱に取り付けた。掲示物には、ブックフェアの説明や購入方法を表示している。

## V. 実施結果と考察

当院に適した方法で、定期的な見計らいをすることにより、下記目標を達成した。

- ・書籍の実物を見て選書ができた
- ・新刊書籍の情報を受動的に入手できた
- ・個人負担による書籍購入の手助けができた

ブックフェアは、2006年1月から開始し2年が経過した。それ以前からも図書室で個人購入の窓口を担っていた。比較するために個人負担による購入冊数を、2000年分からグラフにした(図2)。ブックフェアにて購入されたものと、それ以外のきっかけで購入されたものを分けて示している。

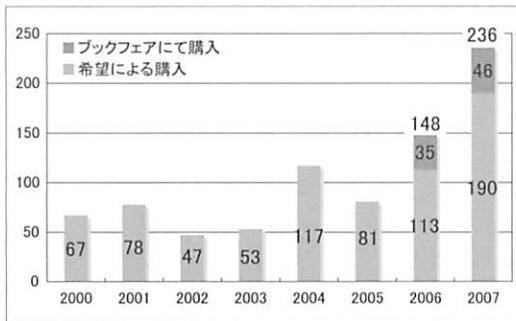


図2 個人負担による購入冊数

利用者に喜ばれた結果か、個人負担による購入冊数が増加した。これは、多少の値引きがあったこととブックフェアの案内をすることで、図書室で書籍が購入できるということを積極的に宣伝したことによるとと思われる。

ブックフェアを実施するメリットを考えた。

### 1. 現物を見ることができる

図書館員だけでなく、立ち寄って書籍を見た医師ら専門家から、その書籍に対する意見を聞くことができる。専門家の意見を参考にできるとたいへん助かる。

### 2. 定期的な選書をする機会が発生する

一括購入時の選書を分散して効率的に行える。具体的には、ブックフェアで見つけた書籍を、一括購入時用の検討リストに随時追加する。そうすることで、一括購入時にかかる選書の時

間を、ある程度軽減できる。

### 3. コミュニケーションツールの一つになる

図書館員の机付近に設置しているため、人見知りするスタッフの場合には少し勇気があるようだが、購入するとなると、図書館員に話しかけねばならない。そこから雑談にもっていければ成功となる。

### 4. 図書室の宣伝になる

毎月1回、メールで案内をするため、図書室の存在を知らない人にも気付いてもらえる。

### 5. 図書室利用者が増加する

院内で多少の割引価格で書籍を購入できるといった利用者にとってのメリットは、クチコミですばやく広がる。うまく作用すれば、図書室利用者の増加につながる。

一方、デメリットもある。

### 1. 紛失する恐れがある

ブックフェアは図書館員の在室中のみ実施しているが、図書館員はずっと席に座っているわけではない。長いときには、1時間程度不在になることがある。幸いなことに、今まで紛失したことはない。

### 2. お金のやりとりに注意が必要

金銭を扱うため、支払いや受け取りなどお金の管理は確実にしなければならない。対策としては、記録を細かくとり、おつりはその場で返すことなどに注意している。

## VI. 今後の課題

今回発表するにあたり、長年見計らいを実施している病院図書館にお話をうかがった。その病院図書館では、図書館員の方が予備評価として日本医書出版協会の目録で見た書籍を探してから、指定したものだけを書店に依頼していた。しかも、定期的ではなく常時実施しているとのことであった。見計らい書籍の入れ替えを月に2回行い、図書館員が勤務していない時間帯も常時(24時間)置いたままという方法である。長年しているけれども、紛失はないとのことであった。紛失があったためこの取り組みを

中止したという病院図書館もあったので、これは驚くべきことと思われる。

当院のブックフェアに協力してくれる書店を探した時、書店3社に声をかけたところ、応じてくださったのは1社だけであった。今後何かあったときのために、他の書店からの協力が得られるようにできると良いかもしれない。

また、出版社によっては、見計らいに応じてくれない書籍もある。どうしても見たい場合は、今のところ書店まで出向かねばならない。

これらをどうするかが今後の課題と言える。しかし今のところ、現状のブックフェアで不満はないため、何か不具合が発生した場合に、これらの課題を検討してみたいと思う。

#### 参考文献

- 1) 津田良成, 近畿病院図書室協議会. 医学資料の整理と利用 病院図書室マニュアル. 京都: トシマ参考図書; 1984. p.69-70.